**音楽科学習指導案**

令和〇年〇月〇日（〇曜日）第〇校時〇年〇組音楽室　指導者　○○　○○

１　題材名　世界の様々な楽器の音楽を味わおう

　　教材名　【日本】「春の海」〈尺八、箏〉

　　　　　　【インドネシア】「チャトリ」〈スリン、カチャピ〉

　　　　　　【ペルー】「ウマウアケーニョ」〈ケーナ〉

　　　　　　【イラン】「キャラバン」〈サントゥール〉

２　考察

(1)　題材観

　　本題材は、以下に示す学習指導要領の内容を受けて設定されたものである。

|  |
| --- |
| 第２学年及び第３学年　Ｂ　鑑賞（1）鑑賞  　ア　鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(ウ)までについて考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと。  (ウ)　音楽表現の共通性や固有性  　イ　次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。  (ウ)　我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性  〔共通事項〕（１）  （本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「音色」、「リズム」、「旋律」） |

世界の諸民族の楽器を調べると、同じような楽器が多くの地域にみられる一方、ある地域にしかない珍しい楽器も存在する。このように楽器には、音楽を奏でる道具としての普遍的な側面と、自然環境や文化の違いからくる地域的な側面がある。本題材では、気鳴楽器〔尺八、スリン、ケーナ〕と弦鳴楽器〔箏、カチャピ、サントゥール〕を使用した、日本の伝統音楽と世界の諸民族の音楽の比較鑑賞を行う。演奏方法や使用されている音階などの共通点や楽器の素材による音色の違いなどの相違点を挙げながら、それらの音楽の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる生徒を育成していきたいと考える。また、音楽の多様性に対する興味・関心を広げ、音楽文化を尊重することにつなげられるようにしたいと考え、本題材を設定した。

(2)　教材観

　　本題材で扱う我が国の伝統音楽は、宮城道雄作曲「春の海」である。この曲は、箏と尺八の二重奏で、宮城が瀬戸内海の島の情景を思い浮かべて作曲したと言われている。箏と尺八の音色を味わったり、楽器の掛け合いを楽しんだりすることができる曲である。また、小学校高学年の教科書にも掲載されているほか、特に正月には、様々な場所で BGMとして使用されているため、今日では日本の正月をイメージさせる曲として定着しており、日本的な風景を強く印象付ける伝統的な楽曲である。

　　一方、世界の諸民族の音楽として扱う曲は、インドネシアの「チャトリ」、ペルーの「ウマウアケーニョ」、イランの「キャラバン」の３曲である。

「チャトリ」は、スリンと大小２台のカチャピの小規模のアンサンブルで、ジャワ島西部のスンダ地方の曲である。カチャピとは、箏と同じ分類の撥弦楽器で、舟形の胴体の上に弦を張って演奏されるスンダ地方の伝統的な弦楽器である。低音を担当するカチャピ・インドゥンと高音を担当するカチャピ・リンチで演奏され、低音のインドゥンより高音のリンチの方が倍の速さで演奏する。スリンとは、日本の尺八に似ている竹製の縦笛で、音階によって４孔か６孔を使い分ける。この曲は、ペロッグ音階（沖縄音階に似ている）に基づく旋律のため、６孔のスリンが使われ、簡単な歌の旋律をスリンで演奏している。

「ウマウアケーニョ」は、アンデス地方のフォルクローレである。原題は、スペイン語でエル・ウマウアケーニョ（El Humahuaqueño）と呼ばれている。フランスで「花まつり」と言うタイトルのシャンソンとして歌われたことから、日本でも「花まつり」として紹介されることが多い。ケーナが主旋律を演奏することが多く、速度も速く、２拍子系の陽気で軽快なシンコペーションのリズムが特徴の曲である。また、フォルクローレは、半音を含まない５音音階からなる旋律が多く、日本の民謡やわらべうたに使用される音階と音の構成が似ていて、親しみを感じられる曲が多い。また、ケーナは、竹製の管の一方にＵ字型の切り込みがある縦笛で、日本の尺八と似た気鳴楽器である。

「キャラバン」は、イラン高原の砂漠を静かに進むラクダの隊商をイメージして作られた即興風の曲で、サントゥールの独奏によって演奏される。ゆっくりとしたアルペジオでラクダの足取りを表現したり、トレモロ奏法でラクダにつけられた鈴の音を表現したりした曲である。サントゥールは、弦鳴楽器の中でも弦をスティックなどで叩いて音を奏でる打弦楽器である。同じ弦楽器でも撥弦楽器の箏やカチャピとの音色の違いがある楽器である。また、この地域の音楽は、西洋音楽の音階にはない微分音が存在し、独特な雰囲気をもっているのが特徴である。

上記の４曲は、それぞれに共通点や相違点が存在するため、それぞれを比較しながら音楽の特徴を捉えるために適した教材だと考える。

３　題材の目標

　日本の伝統音楽と世界の諸民族の音楽の音色、リズム、旋律の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解するとともに、音楽表現の共通性や固有性について考え、それぞれの音楽のよさや美しさを味わって聴き、世界の様々な音楽に対する興味・関心を広げ、音楽文化を大切にする態度を養う。

４　指導と評価の計画（全３時間予定）

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 評価規準 | 知識・技能 | | | 知　日本の伝統音楽や世界の諸民族の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解している。 | | | |
| 思考・判断・表現 | | | 思①　日本の伝統音楽や世界の諸民族の音楽の音色、リズム、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている。  思②　音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。 | | | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | | | 態　日本の伝統音楽や世界の諸民族の音楽に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 | | | |
| 過程 | | 時程 | 〇ねらい　　めあて | | 評価の観点 | | |
| 知 | 思 | 態 |
| つかむ | | 第１時 | 〇「春の海」、「チャトリ」の楽器の音色や旋律を聴き取り、音楽の雰囲気を捉えることを通して、音楽の特徴について考えることができるようにする。  世界の楽器の音楽を比べながら聴いて、音楽の特徴に気付こう  【題材の課題】  世界の様々な楽器による音楽の特徴を捉え、音楽のよさや美しさを味わおう | |  |  |  |
| 追求する | | 第２時 | 〇「春の海」、「チャトリ」、「ウマウアケーニョ」、「キャラバン」の音色、リズム、旋律を知覚し、感受したこととの関わりについて考えながら、世界の楽器による音楽の共通点や相違点に着目して音楽の特徴について理解できるようにする。  世界の楽器の音楽を比べながら聴いて、似ている部分や違う部分を探ろう | | 知〈観察・ワークシート〉 | 思①〈観察・ワークシート〉 |  |
| まとめる | | 第３時 | 〇「春の海」、「チャトリ」、「ウマウアケーニョ」、「キャラバン」のよさや美しさを批評する活動を通して、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽を味わって聴くことができるようにする。  世界の楽器の音楽の特徴を捉え、音楽のよさや美しさを味わおう  【課題を達成した姿】  世界の様々な楽器による音楽の共通性や固有性について考え、音楽の多様性を理解するとともに、音楽のよさや美しさを味わっている | |  | 思②〈観察・ワークシート〉 | 態〈観察・ワークシート〉 |

５　本時の展開（１／３）

(1)　ねらい　「春の海」、「チャトリ」の楽器の音色や旋律を聴き取り、音楽の雰囲気を捉えることを通して、音楽の特徴について考えることができるようにする。

(2)　準　備　鑑賞用音源、学習プリント、 ICT端末、振り返りシート

(3)　展　開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 〇学習活動  ・予想される生徒の反応 | 時間  (分) | 指導上の留意点及び支援・評価  ◇評価　◎研究上の手立て |
| １　本時のめあてをつかむ。  〇「春の海」、「チャトリ」を聴く。  ・１曲目は、小学校の時に聴いたよ。  ・両方とも日本的な感じがした。  ・初詣で聴いたことがある曲だった。  ・尺八と箏で演奏される曲だよね。  ・２曲とも同じような音だったから、同じ楽器が使われているのかな。  世界の楽器の音楽を比べながら聴いて、音楽の特徴に気付こう | 10 | ・映像は流さずに音のみを流すことで、音楽に集中して聴取できるようにする。  ◎楽器編成の似ている２曲に絞って聴かせることで、共通点や相違点などの音楽の特徴に気付きやすくする。  ・発言に対しては、受容的な態度を取り、活発な発言ができるように環境を整える。  ・意見交流の場を設けることで、他者の考えや感じ取ったことなどに触れることができるようにする。  ・違う国の音楽ということを知らせ、音楽に対して疑問をもてるようにする。 |
| ２　二つの音楽を比較しながら聴く。  〇演奏している楽器を確認する。  ・尺八とスリンは、見た目は似ているね。  ・スリンには、リボンみたいな物がついているよ。  ・箏とカチャピも似ているけど、何か違う気がする。  ・２曲とも、管楽器と弦楽器で演奏されていたね。  〇「春の海」と「チャトリ」の音楽の特徴に気付く。  ・明るい感じの旋律がおめでたい雰囲気で、お正月がイメージできた。  ・キラキラした音色で懐かしい感じもしたから、夕焼けの中で家に帰る場面が想像できた。  ・楽器の音が似ていてもイメージが違うのは、何か原因があるのかな。  ・スリンとカチャピの音をもう一度聴いて確認したいな。 | 20 | ・楽器の形状や素材を確認することで、楽器の音色以外からも共通点や相違点を思考できるようにする。  ・生徒の発言を受けて部分的に聴取し、音楽を通して音楽の特徴を確認できるようにする。  ◎音楽から喚起されるイメージや音楽を聴いて思い浮かぶ場面を考えながら聴取させることで、自分の思いや気付きを具体的に認識できるようにする。  ・生徒の発言を基に繰り返し音楽を聴くことで、音楽に対する気付きを共有できるようにする。 |
| ３　題材の課題をつかむ  〇尺八や箏に似ている楽器を探す。  ・中国の洞簫（どうしょう）と尺八は似ているよ。  ・尺八って、フルートと同じなのかな。  ・箏と似ている楽器は、中国や韓国に多いね。 | 10 | ・ ICT端末を活用し、主体的な学習を促す。  ・指定した Webサイトで他の楽器も確認できるように準備する。  ・題材を通しての課題を確認することで、学習に対する見通しを立てられるようする。  【題材の課題】  世界の様々な楽器による音楽の特徴を捉え、音楽のよさや美しさを味わおう |
| ４　学習のまとめをし、学びを振り返る。  ・世界には、日本の楽器と形や音が似ているものがあった。でも、それぞれの音楽の雰囲気は違っていたのはなぜかと思った。その理由を探りたいと思う。 | 10 | ・本時の振り返りを行い、鑑賞して気付いたことや感じたこと、題材で何を学びたいかを問い掛ける。 |

本時の展開（２／３）

(1)　ねらい　「春の海」、「チャトリ」、「ウマウアケーニョ」、「キャラバン」の音色、リズム、旋律を知覚し、感受したこととの関わりについて考えながら、世界の楽器による音楽の共通点や相違点に着目して音楽の特徴について理解できるようにする。

(2)　準　備　世界地図、鑑賞用音源、学習プリント、振り返りシート

(3)　展　開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 〇学習活動  ・予想される生徒の反応 | 時間  (分) | 指導上の留意点及び支援・評価  ◇評価　◎研究上の手立て |
| １　本時のめあてをつかむ。  世界の楽器の音楽を比べながら聴いて、似ている部分や違う部分を探ろう | ５ | ・前時の振り返りを行うことで、自己の気付きや他者への共感を促す。  ・本時の流れを確認し、学習に対する意欲を高める。 |
| ２　「キャラバン」、「ウマウアケーニョ」の音楽の特徴を探る。  〇どの国の音楽かを想像しながら聴く。  ・明るい雰囲気だから、比較的暖かな国かな。  ・尺八と似た音がしたから、日本に近い国だと思うよ。  ・３の国は、暑そうだよね。  ・４は南米だね。もっと日本に近い国かと思った。  〇音楽を形づくっている要素を手がかりに、それぞれの音楽の特徴を捉える。  ・弾むようなリズムと音が跳ぶ旋律だったから、楽しいお祭りみたいな感じがしたよ。  ・キャラバンは、太陽の光をサントゥールのキラキラした感じの音で表していると思った。  ・ケーナの音楽は、何だか懐かしい感じがしたよ。尺八と似た楽器だからかなあ。 | 15 | ・国名を知らせずに音楽の冒頭部分を流し、音楽のイメージから国を想像できるようにする。  ・世界地図を掲示して、演奏される音楽の国を地図上からも確認できるようにする。  ・演奏している映像を流し、楽器の形や演奏方法を認識できるようにする。  ◎音楽を形づくっている要素を手がかりに、音楽の特徴を捉えることで、音楽に対する理解を深める。  ・聴き取ったことを共有し、他者の考えに触れることで音楽に対して様々な視点をもてるようにする。  ・楽器に関する資料を提示し、打弦楽器と撥弦楽器の違いを認識できるようにする。  ◎楽器のルーツや文化や歴史などに触れることで、音楽文化への興味・関心を高める。 |
| ３　「春の海」、「チャトリ」、「ウマウアケーニョ」、「キャラバン」を比較する。  〇学習した音楽から２曲を選び、今までの学習で知覚・感受したことを基に共通点と相違点を挙げる。  ・スリンとケーナは、楽器の形も似ていたし、両方とも日本っぽい感じがした。  ・カチャピとサントゥールは金属の弦だから音は似ていたよ。でも、その地域特有の音階だったから雰囲気は違っていた。  〇個人でまとめたことをグループで発表し、情報を共有する。  ・スリンとケーナは楽器の形が似ていたね。音も二つともそっくりだったよ。  ・カチャピとサントゥールは、金属弦だから音は似ていたね。でも、曲の雰囲気は違っていたよ。  ・同じ音階が使われると、曲の雰囲気も似てくるのかな。  ・演奏方法が違うと音色も変わるね。 | 20 | ◎「ウマウアケーニョ」と「キャラバン」から１曲、「春の海」と「チャトリ」から1曲を選ぶことで、明確な視点をもって、共通点と相違点を探ることができるようにする。  ◎比較しやすいように鑑賞プリントを工夫する。  ・共通点や相違点にまとめたことを、音楽を通して確認する。  ・様々な考えが発言できるように、机間巡視をしながら支援する。  ◇知　日本の伝統音楽や世界の諸民族の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解している。　　　　　　　　〈観察・ワークシート〉  ◇思①　日本の伝統音楽や世界の諸民族の音楽の音色、リズム、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている。  〈観察・ワークシート〉 |
| ４　学習のまとめをし、学びを振り返る。  ・同じ構造の楽器でも演奏の仕方や弦の素材が変わると音色が違っていた。  ・世界の楽器にも歴史や文化のつながりがあることが分かった。 | 10 | ・日本の伝統音楽と世界の楽器の音楽の共通点や相違点を捉え、歴史や文化なども音楽に影響していることを確認し、次時につなげる。 |

本時の展開（３／３）

(1)　ねらい　「春の海」、「チャトリ」、「ウマウアケーニョ」、「キャラバン」のよさや美しさを批評する活動を通して、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽を味わって聴くことができるようにする。

(2)　準　備　鑑賞用音源、紹介文シート、振り返りシート

(3)　展　開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 〇学習活動  ・予想される生徒の反応 | 時間  (分) | 指導上の留意点及び支援・評価  ◇評価　◎研究上の手立て |
| １　本時のめあてをつかむ。  世界の楽器の音楽の特徴を捉え、音楽のよさや美しさを味わおう | 5 | ・前時の振り返りを行うことで、自己の気付きや他者への共感を促す。  ・今まで学んできたことを基に紹介文を書くことを伝える。 |
| ２　紹介文を書き、グループで発表する。  〇音楽の紹介文を書く。  〇紹介文をグループで発表し、共有する。  　今回私は、日本の『春の海』とペルーの『ウマウアケーニョ』のヒミツを発見しました。  　それは何かというと…尺八とケーナがそっくりだということです。素材も竹で同じなのはもちろん、音色も少し音がかすれる感じはそっくりです。でも、尺八はあごを揺らして音を調節しますが、ケーナはリコーダーみたいに演奏するところは違ったところです。  　２曲の中でも、私のイチ押しポイントは…ペルーの音楽だけど、ウマウアケーニョは何だか懐かしい感じがするところです。なぜならば、日本の民謡やわらべ歌と使われている音階が似ているので、私が聴いても懐かしい感じがするところです。  　ぜひ聴いてみてください。 | 30 | ・相手に伝わりやすく具体的な内容の記述を促すため、紹介する相手を明確に示す。  ◎生徒の実態に合わせた紹介文シートを準備する。  ◎学びの深まりや知識の定着のために、紹介文を他者と伝え合う場面を設ける。  ・全体で意見を共有する際には、音楽を通して確認できるようにする。  ◇思②　音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。  　　　　　　　　　〈観察・ワークシート〉  ◇態　日本の伝統音楽や世界の諸民族の音楽に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。  〈観察、ワークシート〉 |
| ３　学習のまとめをし、題材の学びを振り返る。  〇本題材で学んだことを振り返りながら「春の海」、「チャトリ」、「ウマウアケーニョ」、「キャラバン」を聴く。  　日本とインドネシアの音楽は、使われている音階が似ているということを知りました。「チャトリ」を聴いて、沖縄の音楽みたいな感じがして、とても身近に感じました。でも、同じ撥弦楽器でも使われている弦の素材の違いが、音色にも大きく関わっていることが分かりました。他にも世界には、日本の箏と似ている楽器がたくさんあると思うので、違う撥弦楽器の音楽を聴いてみたいと思いました。  【課題を達成した姿】  世界の様々な楽器による音楽の共通性や固有性について考え、音楽の多様性を理解するとともに、音楽のよさや美しさを味わっている | 15 | ・題材で学んだことを振り返りながら「春の海」、「チャトリ」、「ウマウアケーニョ」、「キャラバン」を再鑑賞させる。  ・振り返りシートを活用し、今までの学習の振り返りをさせる。  ・題材での学びの実感を共有できたことを称賛し、今後の学習にどのように生かし、活用していくかを考えさせる。 |